

参考資料Q1-7(2)：地下水調査の手順・手法(案)

※技術委員会での議論

技術委員会として、地下水調査を確実に実施する際に以下の手順・手法を提案します。

- ①調査孔において地下水検層(多点温度検層・電気検層)を実施し、可能であればみ上げ検層を併用実施して、すべり面に間隙水圧として作用する地下水流動とその深度を確認する。
- ②その地下水流動のみを観測できるように遮水処理した別の地下水位観測専用孔を設置する。
- ③地下水観測専用孔の設置が困難な場合は、調査孔に設置するパイプ歪み計などの保孔管のストレーナー区間を上述の地下水流動区間のみを設定し、他の地すべりに直接関係のない地下水の影響を少しでも排除するようにする。
- ④検層に際しては、検層孔の状態に影響を受けると考えられるため孔仕上げや洗浄についても考慮する必要がある。
- ⑤対策工の設計・施工を考えた場合、計画水位の設定の精度を上げるためには、通年の地下水位の観測で地下水位変動の実態と最高最低値の把握が有効であることから、自記・自動観測の採用が推奨される。

地下水排除工の配置を考える上で、**1m深地温探査**や**電気探査**などの物理探査も有効であり、今後の普及に期待したい。